

建 築 家

通 信

2016.1.15

vol.108

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
J I A JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

「建築とまち」 都市計画家 倉澤 聡



街並みを眺めるインフラ



建物の外のアクティビティ



見る見られる関係



中学生まち探検



本町・五月の宵祭

建築は、まちの最重要要素の一つであることは誰もが認めることだろう。建築は空間を構想し、暮らしやまちの活動のゆりかごを生み出し、記憶を詰め込む玉手箱ともなる。最近では、だんだんと空き家が増え、気づくと無くなっている敷地も多い。無くなってしまうと、何があったのかすぐに忘れてしまう。そこで繰り返されてきた人の活動の痕跡や、雰囲気などざっと忘れてしまう。まちの新陳代謝はまちが生き残るためにも、魅力を増すためにも必須のことでもあるが、いまのトレンドは豊かな記憶の手掛かりとなる建築が多く消えつつある。まちのストーリーが生み出される速度よりも、失われる速度のほうがはるかに速い。ストーリーだけでなく、人が持っていた技術や努力の痕跡も失われていく。現代は、脳の記憶も外部に依存し、記憶したことを忘れてしまうような環境となってきたし、人にとってもまちにとっても忘却の時代と呼べるかもしれない。

しかし、忘却や惰性に身を任せていけば、まちは無くなってしまう。一方、都市やまちは創造性の箱となる可能性も本当は秘めている。そのような創造性を生み出すための豊かなまちというエコシステムを育てることが今求められているように感じる。すでに迎えつつある急速な人口減少社会においても、人が人を呼ぶ、能力が能力を呼ぶエコシステムを持つまちならば、選ばれるまちとなる。選ばれるまちはさらに選ばれ、選ばれないまちはさらに選ばれなくなるという傾向が世の中にはあるようだ。個の建築の魅力の創造力も、街並みや界索性というまちでしか生まれ得ない群としての建築の魅力の創造力もそれを生み出す生態系を創れるかどうかにかかっている。生態系として考えれば、もちろん善いと思われる建築を生み出す建築家や施工側の努力も必須であるが、善いと思われる空間やアクティビティを生み出したいと考えるお施主さん、ユーザー、つまりそのような人を育むまちの生態系をどう生み出すか

がポイントとなる。加えて、まちという次元では、単一の敷地だけではなく、つながりや面としての空間、公共空間やパブリックとプライベートの間をデザインする発想を共有化することが必須となる。この辺りに都市デザインの役割や存在意義もでてくることになる。都市デザインは、まちと建築の架け橋となり、まちにおける建築の創造力を発揮するための生態系の基盤をつくるためにあるといえるかもしれない。

とはいえ、まちの生態系からみる都市デザインのあり方はまだ私の頭の中で十分に練られていない、目下の課題である。実現可能な都市デザインとして私が今大切だと考えていることは、街路空間でいかに過ごす仕掛けを増やせるかということだ。まちの街路は本来、多くの人が歩くだけでなく、過ごす空間でもあったはずだ。モータリゼーションの中でその過ごすという機能が失われてきたために、建築と公共空間の間に存在していたはずの見る見られるという関係性が失われてしまったように思う。見る見られるという関係性が薄れれば、街並みや建築に対する人々の意識も薄まってしまふ。景観に対する価値観が弱くなってきたのも、眺めるという機会を公共領域から消してきたことが大きな要因かもしれない。まちに来る人の景観に対する意識も薄まれば、当然、見られる側のものをつくる人たちは、それに代金を使うことに価値があると思うことも少なくなる。見る見られる関係性をまちなかに再び生み出すこと、建築とまちの関係性を再構築すること、建築とまちの人の意識をつなぐ仕掛けを生み出すことがさらに求められていると感じている。



冬のセミナー

まちなみウォッチングin野沢温泉村+技術交流会



まちなみウォッチングin野沢温泉村

池森 梢



今の野沢温泉を感じたく参加しました。外国人観光客が増える中、温泉街はどう変化しているのだろうか、興味深々。ところが、雪の季節にはまだ早く、昼間は国内の観光客もまばらでした。

さて、ウォッチング街中に点在する外湯が存在感を放ち、ここに住まう方々の生活の香りが温泉街の雰囲気をつくり上げている。そして、閻魔堂、湯沢神社、健命寺、

御神体などが歴史の証として存在し、脈々と営まれた子孫繁栄の祈りと、生命に対する神秘への崇拝が、街の軸にどっしりと鎮座する。この街には独特な湿度を感じる。故に、人々は引き寄せられるのだろう。さらに、現代につくられた野沢温泉ロッジ、おぼろ月夜の館など建築家の意思が織り込まれた建築が、この街に新たな湿度を与え続ける。そして今、新たなお店が明かりを灯している。ここから先へ、街がどのように深みを増すのか、また訪れたいと思います。

技術交流会

笹崎 茂・株式会社ニュースト



初めてJIA長野県クラブの技術交流会の講師として、お招き頂き有難うございました。

“断熱と窓”と題しまして御案内申し上げ、一部弊社の全国各地の施工現場も紹介させていただきました。20数名の出席者と共に、1時間余りでしたが、弊社の製品に少しでもご理解をいただいたものと思います。

私たちは、NEW+NEXT 新しいもの、次なるものへの“こだわり”を持ち、チャレンジ精神にあふれた技人(わざびと)の集団です。創立以来、時代の流れを素早く読み取り、新分野・新領域へ挑戦することを目指して

います。

ニューストが作り出す商品は、木・アルミ複合断熱商品(木の持つ温もりとアルミの持つ耐久性を融合した断熱窓・スクリーン)、もう一つは消音システム商品(消音性能を備えた外装ルーバー・パネル)です。異なる商品群ですが、ユニバーサルデザイン・エコロジーデザインと環境に配慮した提案商品です。

これからの暮らしを豊かにするために、多様なユーザーのニーズに対応して、時代にあった商品をお届けしたいと考えています。

今後共、JIA長野県クラブの益々のご発展と皆様のご健勝を祈念致します。

イスラエル建築家協会交流会

JIA関東甲信越支部住宅部会—イスラエル建築家協会 クツツアー日本事務局 吉田 晃



2015年10月1日朝、イスラエル建築家協会の建築家と建築技術者35名が長野を訪れました。

長野駅に着くと、ミシュランで紹介されて世界的に有名になった温泉モンキーをまず眺め、その後小布施の街へ。

(株)宮本忠長建築設計事務所の西澤広智さんの案内で町内を巡りました。あらかじめ配られていた英文の地図を手元に要所要所で適切な解説付きで、その後善光寺へ。お参りして、門前町を通り、夜は藤屋御本陳の宴会場で交流会。長野地域会の片倉隆幸さん、事務局の佐藤さんそして西澤さん、更に藤屋御本陳17代目当主藤井大四郎さんにお越しいただいた。

長野地域会を代表して片倉さんの挨拶、藤井大四郎さんの御本陳の建物についてのお話、アリエ・クツ団長の挨拶の後、西澤さんから小布施の計画についての講演があった。講演後、当主の案内で御本陳の建物を見学。

メインの西澤さんの小布施の修復計画の話は、昼の見学ツアーとリンクして信州の街づくりの底の深さを強く印象づけるものだった。

イスラエル建築家協会の日本建築ツアーについて。

東京工業大学大学院平井研究室で学び帰国後故国で設計事務所を主宰するアリエ・クツ氏(60)が企画する日本の建築を学ぶツアー。「日本の建築は世界の手本だ」と27年前から始まり毎年行なわれている。当初はお手本だったかもしれないが、近年のイスラエルの発展は目覚ましく、国力が付き日本のほうが学ぶことが多い昨今。建築家同士の交流も進んでいる。古都エルサレムにある国立エルサレム芸術大学のキャンパス拡張計画は国際プロポーザルでSANAAが選ばれ、イスラエル側アーキテクトとしてクツ事務所が協力し現在進行中。

ツアーの情報はJapan architecture 誌に依るところが多かったがそれだけでは飽き足らなくなり、数年前から地方の地道な活動に注目し始め、機会を求めていたところ、片倉さん、西澤さんが呼応してくださり実現した。ご両人およびJIA長野地域会の方々には厚く御礼申し上げる所存である。宮本事務所の郷土に根ざした地道な取り組みには皆共鳴し感動した。善光寺を中心とした門前町の荘厳さは宗教都市エルサレムを持つイスラエルの人々にはすぐ共鳴されるものとして映った。また藤屋御本陳はオリジナルのユニークさ、そして見事な改修ディテールには皆、目を丸くしていた。

今回を端緒に交流が拡大することを望む所存である。



9月17日からの3日間、北陸新幹線が延伸開業して約半年の金沢市を訪れた。
市内に重要伝統的建造物群3箇所を抱える歴史的風土豊かな街並みを体験できるユニークで多彩なプログラムで構成されており、町に出ようという趣旨のウェルカムパーティーはまさに街中宴会となって、あちこちで大いに盛り上がっていたようである。

個人的には、2011UIA東京大会の際にJIA準備委員会として活動した仲間達と集い、久しぶりの旧交を暖めあった。
金沢大会はこれまでの建築家大会と大きく趣を変えて、同時並行のプログラムを少なくし、大会に参加した全ての会員が参加できるプログラムで大会を構成しているのが特徴だった。
金沢城跡公園で開催されたレセプションパーティーは、生憎土砂降りの雨という悪条件下での開催となり、急遽張られたテントで雨をしのぎながら、後々まで記憶に残る大会となった。

地域サミット

川上 恵一



去る11月6日・7日、JIA関東甲信越支部の地域サミットが、長野は湯田中のよろず屋旅館で行われた。西澤副代表の苦心の手配で、長野地域会の大御所・宮本忠長先生が初期に設計された老舗の温泉ホテルである。コンクリート打放しのモダニズム建築でヒューマンスケールが心地よい。1都9県22地域会の代表が年2回

集まっの情報交換だ。来る者は旅行気分であろうが、山口代表と赤羽氏と私の3人がホスト役となった。会場の目玉は「桃山風呂」という、お寺の本堂を思わせる大浴場だ。温泉に浸かった後の二次会では、ホンネの建築談義で盛り上がり、翌日は約半数が西澤氏の案内で小布施を見学した。久々の学生気分がおみやげになったようだ。

東京大学安田講堂見学会

尾日向辰文



昨年改修工事が終了した安田講堂をはじめ東大本郷キャンパスの歴史ある建築群を、その多くの保存再生を手掛けた香山壽夫先生自ら案内してくれるという、夢の企画!でした。

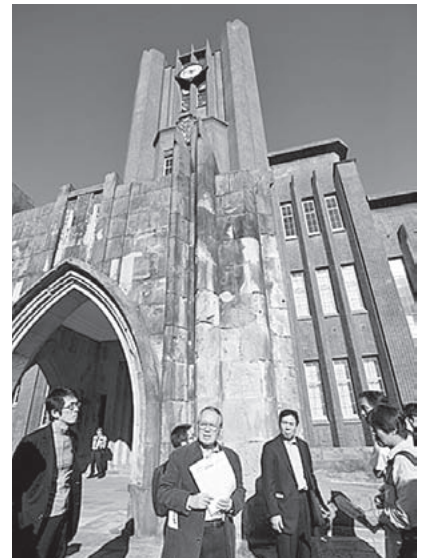
赤門前に集合、内田祥三が昭和初期に手掛けた内田ゴシックと呼ばれる煉瓦風の建物の外観を見学しながら、各所で歴史小咄を楽しみながら、工学部一号館へ。中庭に増築されたガラスの壁によって裏返る内部化した外部、元々は空中だったスペースに床ができて有機的に繋がった図書館や講堂。刺激的な空間です。

ここで安田講堂の改修を監修された千葉学教授が一行に加わり、安田講堂へ。重い材料を軽量なパネルに置き換えるなど耐震性を高め、自然光を導くトップライトを復活した天井など、文化財的な修復ではない、この先50年使い続けるための改修、その判断の過程に学ぶところが多いです。

伊藤国際学術研究センターは、ホールを地中化することで表通りに面した開かれた前庭をつくり、地上部分は明治初期の煉瓦倉庫を囲い

体化したつくりです。その煉瓦倉庫を改装したフレンチレストラン「カメリヤ」で懇親会、時を刻んだ煉瓦の壁がレトロな素材として生かされていました。

それぞれの手法で蘇り使い続けられる建築は、古民家の改修や再生などに取り組む際には、大きな道標となるでしょう。そんな機会が訪れると、嬉しいな。



第7回 伊那谷住宅建築展

御子柴 進



第1回を開催した2008年から丸7年。今年も、定例会場となった伊那市図書館の市民情報コーナーを中心に、「伊那谷住宅建築展」を開くことができました。今年のテーマは『逆手に取る』。建築の、特に住宅の設計は、目の前に展開する様々な悪条件を、一つ一つ克服しながら、むしろ、その悪条件を 逆手にとって、アイデア

やデザインを進めていくこそが、創造につながるのではないかとこの思いからのテーマでした。

開催中のワークショップでは、林業関係者の協力も得て、新酒のシンボルとして、造り酒屋の軒に吊るされる「杉玉(さかばやし)」の小型版を、来場者とともに製作しました。まさに「酒手(サカテ:酒の代金)に取る」だったのでしょうか?



協力会だより

「品質主義」をモットーに!

新入会員 丸山硝子株式会社 小林 大介



私共、丸山硝子株式会社は昭和58年に創業して以来、ビル用建材・住宅用建材・金物の施工販売、自社JIS認定ペア硝子工場でのペア硝子製作そして硝子施工販売、太陽光事業、不動産事業、そして24時間受付のガラス修理119番事業を柱に活動しております。取り扱い商材は大きく分類し

ても30種類を超え、協力工場様・メーカー様は100社近くになります。お客様のあらゆるニーズに応え地域社会に貢献する為に、全社員一同、これからも当社の目標・指針・使命であります「品質主義」を忠実に実行して、確かな品質の商材を提供して参る所存です。細かいこと、特殊などんなことでも問い合わせ頂ければと思います。宜しくお願い申し上げます。

〒399-8101 長野県安曇野市三郷明盛855-7 TEL:0263-77-5640 FAX:0263-77-8820

20年目を迎えて...

根羽村森林組合 鈴木 吉明



根羽村において、トータル林業を始めてから20年目を迎えるようとしています。

村内の森林も戦後の植林により65年生から70年生を中心とする杉の林が大半を占めるようになってきました。世の中の世代交代と同じように森林も新たな植林を行い、森林の更新を行う時期となりました。国も地球の温暖化対策を検討する中で、森林整備を進め、

平成21年に331万㎡であった木材の生産量が平成25年には495万㎡と大幅に増えてきた。合わせて政策として木材の需要拡大を進めてきており、CLTや木質バイオマスなど新たな取組も行われつつあります。根羽村としても豊富な森林資源の利用開発を進め、正会員の皆様方に提案できるような製品開発に努めてまいりたいと考えております。

今後とも宜しくお願い致します。

〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村407番地10 TEL:0265-49-2120 FAX:0265-49-2432

暮らしの提案

長野ピーエス株式会社 蚊野 真



近年、長野県でも暑さと寒さの両方の対応が必要となり、今までの様に暖房だけでなく、涼房も必要となってきました。PSでは、機械的に建物全体を均一の環境にするのではなく、設計者とエンドユーザーとの打合せの中で、住ま

い手の工夫(通風や日射遮蔽など)によって、PS HR-Cを中心とした、生活エリアに自然な涼しさ・暖かさをご提案しています。今後も、「いつ家に帰ってきて、気持ちいいことが嬉しい」と言える様な室内環境のご提案ができていければと思います。

〒380-0928 長野県長野市若里1-23-11 UOB若里ビル TEL:026-228-4334 FAX:026-227-4328

報告 協力会 交流イベント

協力会会長 加賀 修



去る10月17日に松本のアピナポウル城山にて、正会員と協力会との交流を図ることを目的として、今年度新規の予算を頂き、交流会イベントを企画させていただきました。今回は新たな試みとしてボウリング大会を開催しました。正会員11名、協力会員・事務局9名の合わせて20名の参加を頂き、盛大に執り行うことが出来ました。日頃のうっぶんをピンにぶつけて、ストレス解消をされた方も多かったのではないのでしょうか。童心に返ってワイワ

イ騒いで、結構楽しい一時を過ごせたと思います。表彰式は別会場で食事をしながら、2ゲームの総得点で順位を争い、豪華賞品(高級牛肉・ズワイガニ等)の贈呈を行いました。

協力して頂いたスタッフの皆様、ご参加いただいた正会員・協力会の皆様、誠にありがとうございました。来年度も機会があれば、続けて行っていきたく思いますので、皆様のご参加・ご協力の程宜しくお願い致します。



あるしてくとVOL.3 発刊

開催したイベント

- 10月1日(木)・・・イスラエル建築家協会交流
- 10月8日(木)・・・東京大学安田講堂見学会
- 10月17日(土)・・・会員交流イベント ボウリング大会
- 11月28日(土)・・・第2回幹事会 冬のセミナー
- 1月12日(火)・・・第3回幹事会

今後の行事予定

- 2月7日(日)・・・暮らしの空間セミナー
- 2月27日(土)・・・文化講演会
- 2月28日(日)・・・長野県学生卒業設計コンクール



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

編集後記

昨年は、新国立競技場国際コンペや抗工事データ偽装の問題がニュースとなり一般社会でも話題となりました。そのような状況の中で、今年は建築家のあり方を問われる一年になるのではと思います。今号は、冬のセミナーを中心に編集し、イスラエル建築家協会交流会では関東甲信越支部住宅部会・吉田晃氏に、巻頭特集では「建築とまち」というテーマで都市計画家・倉澤聡氏に寄稿して頂きました。新年号として皆さんに楽しんで頂けると幸いです。..... 吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。